

宗岡中だより



9月号 令和元年8月29日(木)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

ひぐらし 「 蜩 の 声に包まれ 新学期」

校長 佐藤哲浩

7月29日に気象庁から梅雨明けが発表され、その後3週間くらいは猛暑の連日、そして24節気の処暑（暑さが和らぎはじめ穀物が実る時期）を迎えた頃に、ようやく本来の夏の気候になってきました。今年は梅雨明けが遅かったため、農作物の生育が懸念されていますが、本来の収穫になることを願っております。

私事になりますが、お盆の午後に何気にテレビをつけたら、「ポツンと一軒家」が放映されていました。最初はさわりだけを見て消そうと思っていましたが、感動して最後まで見入ってしまったのです。この「ポツンと一軒家」、ウナギ上りに視聴率が上昇し、毎週20%を超え、日曜日のゴールデンタイムに、「世界の果てまでイッテQ」、大河ドラマ「いだてん」を超えて一番になるということは、何か視聴者の心に訴えるものがあるのだろうと思っていました。この番組は日本各地の人里離れた場所に、なぜだかポツンと存在する一軒家。そこにはどんな人物が、どんな理由で暮らしているのか？ 衛星写真だけを手掛かりにその地へと赴き、地元の方々からの情報をもとに、一軒家の実態を徹底調査しながら、人里離れた場所にいる人生にも迫っていく。搜索道中で出会った地元の人々との暖かな交流、一軒家で暮らす人々の深みある人生を描いたものです。

私の中で感動したのは、新潟県佐渡の山奥の一軒家、高野さんが生まれ育った実家、平成元年まで父母が暮らしていたが、現在は誰も住んでいないという。家の裏手には山が崩れてできた広い棚田があり、高野さんが一人で管理している。かつて朱鷺の餌場だった高野家の棚田は全滅した日本種の朱鷺が最後まで餌を食べに来ていたという。高野さんの亡父は戦地に赴く出兵前日、田んぼで横たわる朱鷺を発見。腕を抱え家へと連れ帰ろうとした矢先に朱鷺は亡くなったが、自分の身代わりになってくれたのだろうという思いで出兵する。戦地で肩を負傷するも生還することができた亡父は、恩返しにと佐渡トキ保護センターの飼育員となった。出兵前日にここで運命的な出会いを果たし、朱鷺に一生を捧げた高野さんの亡父・高治さん。長年の努力が実り、佐渡トキ保護センターでは中国産朱鷺の人工繁殖に成功。現在およそ350羽の朱鷺が生育している。父の生前から田んぼは朱鷺の餌場として残してあるのだから見守ってくれと言われ、現在も整備を続けている。

話は変わって、いよいよ今日から二学期が始まります。二学期は授業日が多く、学習・行事に腰を据えて取り組むことができる学期です。1年生は入学時の志を持ち続けさらにステップアップして欲しいと思います。2年生は部活動、生徒会活動では学校の中心になります。「学校の中心になっていく」という気概を持って生活して欲しいと思います。3年生は自分の進路を真剣に考え、自己実現に向けて努力してほしいと思います。そして3年生にとって最後の行事には、思い出に残るよう精一杯取り組んでください。